

**【奈良県河合町】
令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業
（運動部活動の地域移行に向けた実証事業）**

自治体名	奈良県河合町
担当課名	河合町教育委員会事務局 総務課
電話番号	0745-57-0200

1. 自治体の基本情報

基本情報

人口	16,822人	部活動数	13部活
公立中学校数	2校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	部活動地域移行に伴う整備委員会
公立中学校生徒数	336人	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	「河合町部活動地域移行推進計画」（令和5年7月）

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

1. 生徒数の減少に伴う学校部活動の状況

河合町の生徒数は、この10年間で約120人減少し、今後も漸減傾向にある。その結果、サッカーやラグビー、軟式野球などチームが編成できず加入者も減り廃部となった部活動がある。ソフトテニスや卓球、陸上競技、吹奏楽といった少人数又は個人で取り組める活動が実施され、参加生徒数も多い。

2. 部活動に携わる教員の現状と意識

教員対象調査において部活動指導の専門性を問うたところ、6割が「専門でない。」と回答し、多くの教員が日々の指導に課題を抱えていると推測された。また、「地域クラブで指導を希望するか。」との設問について、「希望する。」と答えたのは14%であった。「手当よりも休日そのものがほしい。」など現状の改善を望む声も多い。

3. 地域のスポーツ・文化芸術団体の現状

町スポーツ協会など地域の団体や指導者からは、協議会（整備委員会）等における話し合いを通し、休日部活動の地域移行推進について理解を得ている。しかし、団体構成員の高齢化が進み専門的な指導力、指導資格等について課題が示されている。

4. 生徒、保護者の部活動や地域移行についての意識

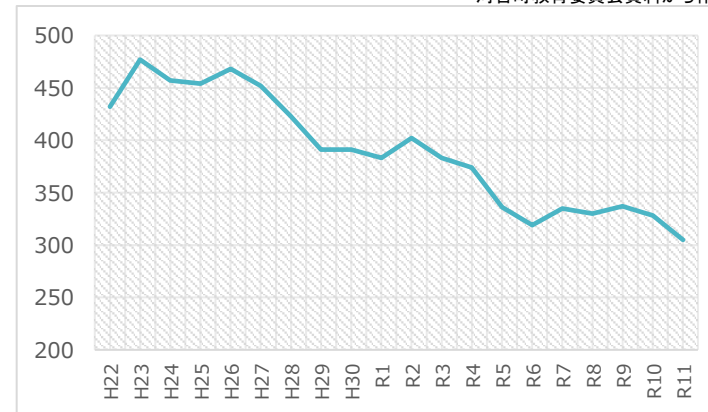
中学校1、2年生の86%が学校部活動に参加し、学校外で活動している生徒を含め82%の生徒が休日や放課後の活動に満足感を持っている。保護者との意見交流では、学校部活動の現状をふまえた地域クラブ活動の必要性が認識され、特に小学生を持つ保護者からは地域クラブの動向について情報提供を求める声もある。

5. 当面の課題

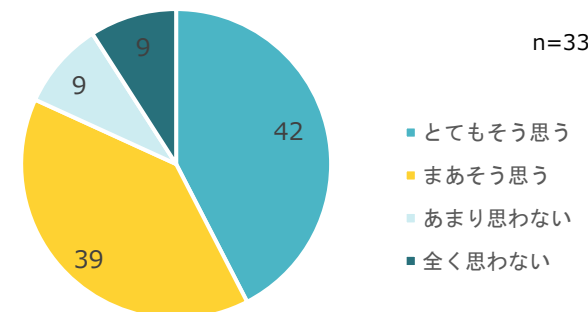
地域移行の運営主体となる「河合町文化・スポーツ地域クラブ」を創設するため、指導者の発掘と質の確保にむけた取り組みを進める。また、「地域クラブ」の体制整備にあたり「実施要項」を定め、学校、生徒、保護者に向けた情報発信に取り組む。

河合町立中学校の生徒数推移（予測）

河合町教育委員会資料から作成



「休日の部活動が負担に思うことがありますか」

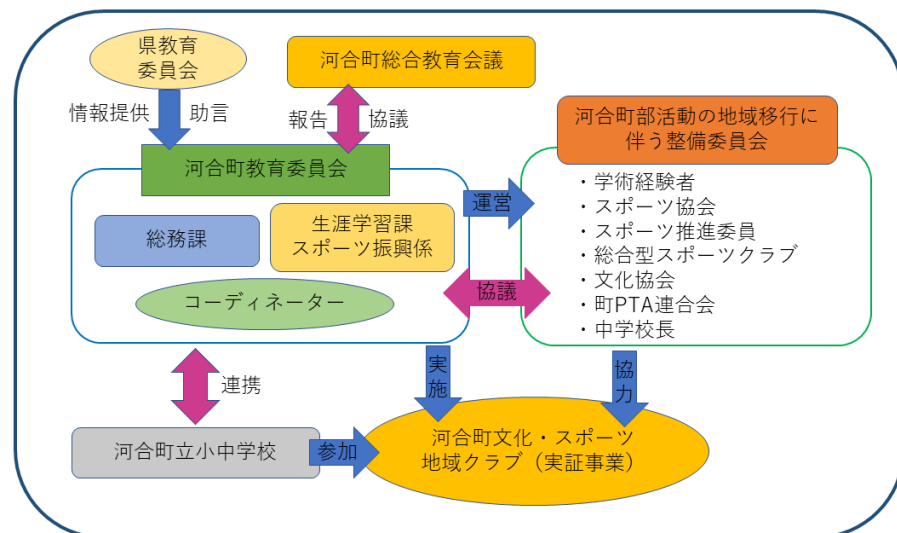


令和4年「部活動についてのアンケート（教員）」結果から

2. 実証内容と成果

運営体制・役割

▼運営体制図（市区町村における推進体制図）



▼行政組織内での役割分担

● 教育委員会事務局（総務課）

- ・推進計画の作成
- ・地域移行に伴う整備委員会の開催、運営
- ・町内各学校との連絡、調整
- ・関係部署との連絡、調整

● 教育委員会事務局（生涯学習課・スポーツ振興係）

- ・スポーツ協会、総合型地域スポーツクラブ等との連絡調整
- ・文化協会との連絡調整
- ・町PTA連合会との連携

年間の事業スケジュール

- ・ 4月18日（火） 河合町部活動地域移行整備委員会第1回事務局会議
- ・ 5月2日（火）・12日（金） 中学校部活動活動状況視察
- ・ 6月20日（火） 第2回事務局会議
- ・ 7月7日（金） 河合町部活動の地域移行に伴う整備委員会（第1回）
- ・ 7月18日（火） 第3回事務局会議
- ・ 8月3日（木） 部活動の地域移行に向けた実証事業に係る連絡協議会
- ・ 9月19日（火） 第4回事務局会議
- ・ 9月20日（水） 奈良県地域クラブ活動推進連絡協議会
- ・ 10月18日（水） 第5回事務局会議
- ・ 10月14日（土）～12月16日（土） 河合町地域クラブ・剣道スクール
- ・ 10月20日（金） 河合町PTA連合会交流会
- ・ 11月初旬～中旬 休日部活動の地域移行に関するアンケート（調査）
- ・ 11月21日（火） 第6回事務局会議
- ・ 11月22日（水） 河合町部活動の地域移行に伴う整備委員会（第2回）
- ・ 12月20日（水） 第7回事務局会議
- ・ 12月21日（木） 中学校校長懇談
- ・ 1月16日（火） 第8回事務局会議
- ・ 1月26日（金） 学校部活動の地域移行に向けた実証事業実践報告会
- ・ 2月16日（金） 河合町部活動の地域移行に伴う整備委員会（第3回）
- ・ 2月20日（火） 第9回事務局会議

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

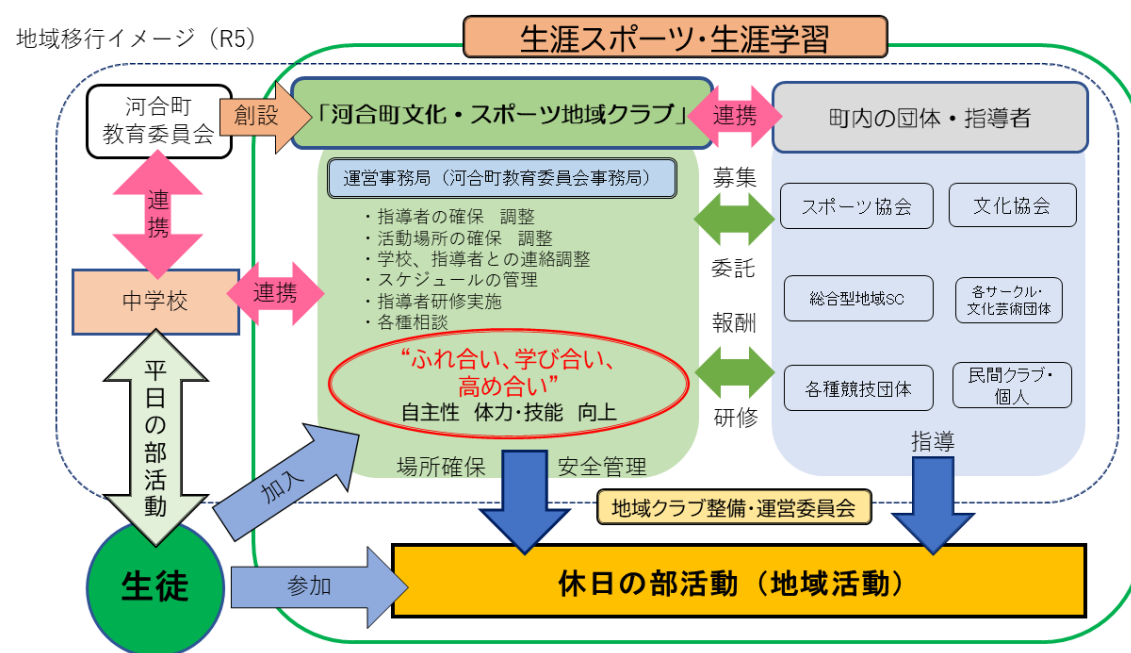
拠点校数	1校	地域クラブ活動に取り組んだ種目	剣道
地域クラブ活動に取り組んだ部活動数	1部活		

主な取組例

▼活動概要

拠点校名	河合町立河合第二中学校
地域クラブ活動に移行した部活動数	1部活
地域クラブ活動で実施した種目	剣道
運営主体名	河合町教育委員会事務局
運営類型	市区町村運営型（地域団体・人材活用型）
1か月あたりの平均的な活動回数	剣道：月3回
指導者の主な属性	スポーツ少年団指導者・部活動外部指導員 教員（兼職・兼業）
活動場所	中学校武道場
主な移動手段	徒歩・保護者の送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	無償
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 児童・生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

▼運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

取組内容

▼取組項目名：ア. 関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

広域的な活動を行うコーディネーターの配置

取組の成果

- ・関係諸団体の参加を得て「河合町部活動地域移行に伴う整備委員会」を年3回（7月、11月、2月）開催し、休日部活動の地域移行の必要性を共通理解することができた。現状、最大の課題は地域の中で中学生を指導できる指導者を確保することであり、引き続き検討を進める必要がある。
- ・学校部活動の競技種目と関連する地域団体を夏、秋に個別訪問し、地域移行についての啓発、情報提供を行い理解と協力を求めた。各団体の代表者には、概ね賛同を得ることができ、今後も情報発信を継続することが必要である。
- ・町PTA連合会の会合に参加し、地域移行の趣旨や町の取り組みについて説明の機会を得た。保護者の関心は高く、引き続き情報提供の要請があった。
- ・毎月の町校長会において整備委員会における検討状況を報告するとともに協議を行った。また、中学校長との懇談会を実施し、今後の進め方について意見を交換した。今後の学校部活動の活動状況を見通し、地域クラブの内容を検討していくことの必要性を確認した。
- ・児童生徒と保護者を対象に「休日の部活動の地域移行についてのアンケート」を実施し、放課後の活動状況と今後のニーズを把握した。また、教員には地域クラブの指導についての意向調査を行なった。生徒、保護者からは、地域クラブにおいて専門的な指導を期待する声が多数あげられた。教員調査からは、地域クラブでの指導を望む教員がごく少数であることが明らかになった。

今後の課題と対応方針

- ・指導人材の確保についての方針を検討する。
- ・試行的な事業を拡大し、関係者との協議を重ね本格実施に向けた課題を一つずつ解決する。その過程を通して、河合町文化・スポーツ地域クラブ実施要項を策定する。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

取組内容

▼取組項目名：ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

試行的な地域クラブ活動の実施

取組の 成果

- ・町スポーツ協会に加盟する団体（剣友会）の協力を得て、「河合町地域クラブ・剣道スクール」が実施できた。
- ・拠点校の中学校剣道部に所属する中学生6名と剣道の体験を希望する小学生1名が、土曜日の午前、計8日活動を行った。
- ・剣道部の外部指導者と兼職兼業の承認を得た部活動顧問教員が協力して指導にあたったため、平日と休日の活動が連続して行われた。
- ・部活動外部指導者が地域クラブの指導者となったため、単独で指導を行うことが可能となった。そのため顧問教員がいない日も活動を実施することができようになり、顧問教員は安心して休暇を取得することができた。

特に 工夫した 事項

- ・本町では、小学校と中学校との連携を進めており、試行的な取り組みを行う際、参加者を中学生のみとせず、小学校高学年の児童にも部活動体験として募集を行った。
- ・小学生は1名の参加となったが、剣道の基本を体験するプログラムに取り組むなかで中学生との交流も見られた。

今後の 課題と 対応方針

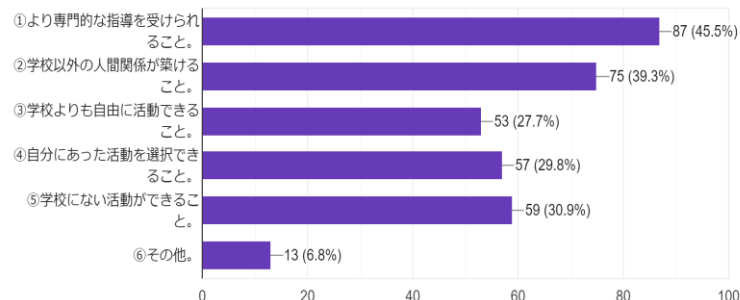
- ・今後地域クラブとして剣道スクールを実施していくには、協力いただいた団体の日常活動との兼ね合いもあり、継続的に指導できる人材の確保が必要になる。団体の人脈を通して、発掘していきたい。
- ・指導者謝金、指導者と参加者のスポーツ安全保険料を公費負担として実施した。今後の展開にあたり、こうした費用をどのように賄うのか保護者負担等を含め検討する。

2. 実証内容と成果

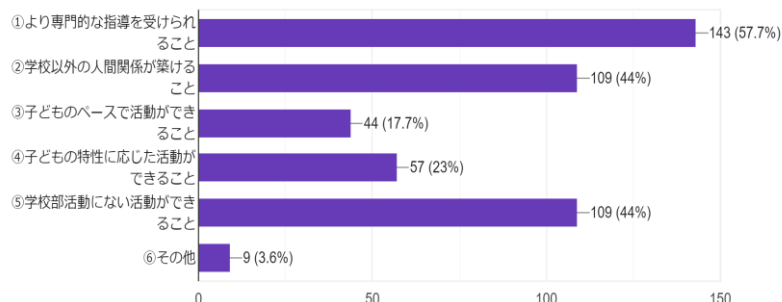
参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

専門的指導に期待

10. 休日の学校部活動が地域クラブの活動にな...部活動等に参加していない人も答えてください。
191 件の回答



4. 休日の学校部活動が地域クラブの活動になった場合...は何ですか。（主なものを二つ選んで下さい。）
248 件の回答



部活動を地域の活動へ ～河合町地域クラブ・剣道スクール～

休日の部活動を地域クラブの活動に移行していくため、「運動部活動の地域移行等に向けた実証事業」（スポーツ庁）の一環として、「河合町地域クラブ・剣道スクール」が実施されました。10月から12月の土曜日午前、計8回、第二中学校武道場を会場に、中学生と小学生と一緒に稽古に励みました。

【「まちの動き」 広報かわい 令和6年2月号】

【休日の部活動の地域移行についてのアンケート調査結果から】

生徒

保護者

2. 実証内容と成果

参考資料（活動写真）



【複数の指導者による運営】



【剣道の基本を小学生に】



【小学生にアドバイス】



【段位認定審査会に向けて】

2. 実証内容と成果

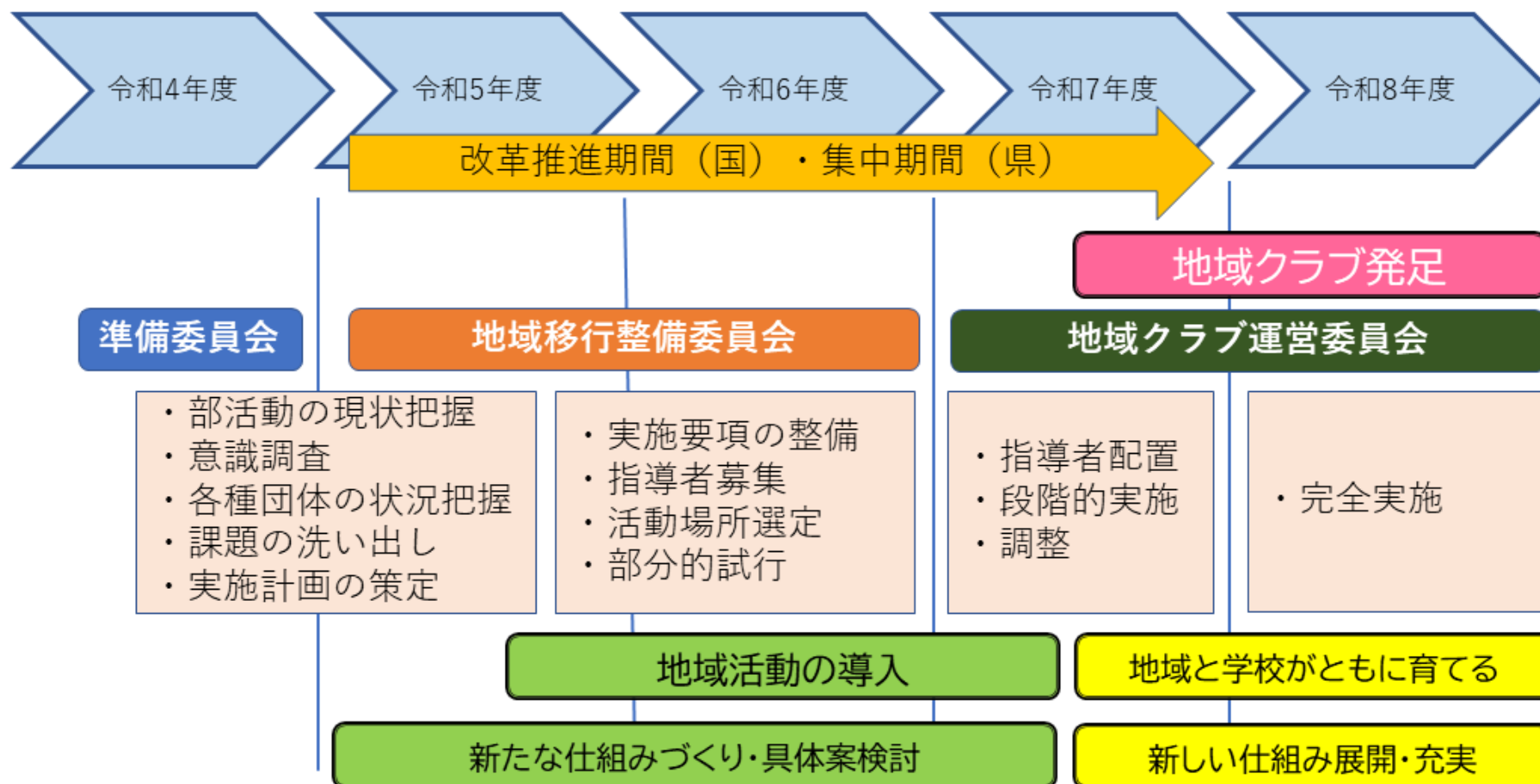
地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

年度	実施事項（予定）	内容
令和4年	検討開始 部活動の地域移行に伴う準備委員会開催	・教育委員会事務局が学術研究者を招き、町スポーツ協会と文化協会代表、教育委員に対し、地域移行についての動向について説明し、その必要性を共通理解できた。
令和5年	地域クラブ試行 部活動の地域移行に伴う整備委員会開催 休日の部活動の地域移行についてのアンケート実施	・地域クラブの試行を行うため、コーディネーターがスポーツ協会に所属する剣道の指導者に依頼し実施について協議した。地域移行の動きについて理解いただき、8日間開催した。 ・アンケート結果では、地域移行に伴う期待として、生徒、保護者から専門的な指導を期待する声が高いが、地域団体の構成員の高齢化もあり、身近な場での指導者発掘と質の確保が大きな検討課題となっている。
令和6年	地域クラブ試行拡大 部活動の地域移行に伴う整備委員会開催 休日部活動の地域移行実施要項検討 学校との調整	・地域クラブの試行的な取り組みを拡大し、実践的に指導者の量と質の確保について検討する。 ・学校との協議を進め、平日の部活動とマッチングした移行の進め方について話し合う。
令和7年	地域クラブの段階的实施 部活動の地域移行に伴う運営委員会創設 生徒・保護者への説明	・移行実施について、保護者や生徒への説明、懇談を行う。
令和8年	地域クラブの実施・拡大	

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ

「河合町文化・スポーツ地域クラブ」実施までの年次計画



【奈良県吉野町】
令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業
（運動部活動の地域移行に向けた実証事業）

自治体名	奈良県吉野町
担当課名	教育総務課
電話番号	0746-32-0190

1. 自治体の基本情報

基本情報

人口	6036人	部活動数	7部活
公立中学校数	1校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	吉野中学校における学校部活動の段階的な地域移行についての検討会議
公立中学校生徒数	98人	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	なし

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

学校部活動の現状・課題

- ・運動部5つ（野球部、バレーボール部、陸上部、水泳部、カヌー部）
- ・文化部2つ（吹奏楽部、アート部）
- ・各部活に顧問2名（全ての教員がいずれかの部活動の顧問）
- ・生徒数減少に伴い部員数も減少、活動維持継続が困難な状況
- ・顧問に経験がなく専門的な指導ができない部活もある

教員の超過勤務の現状・課題

- ・学校教員の長時間勤務が慢性化
- ・ほとんどの教員が休養日である土日祝日等に部活動指導のために出勤

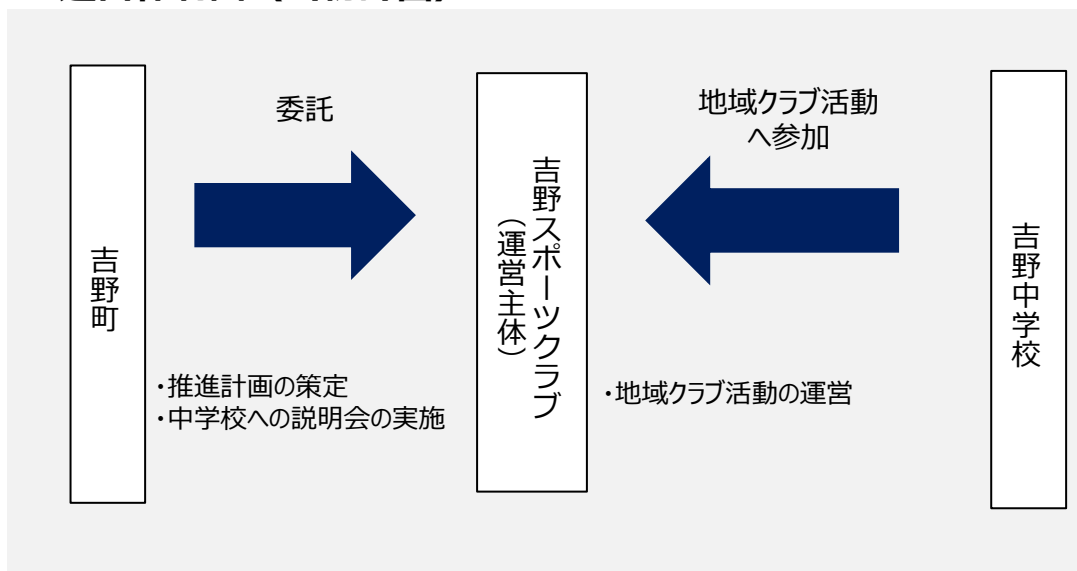
総合型地域スポーツクラブの存在

- ・多様なスポーツ活動を展開するNPO法人吉野スポーツクラブと連携して部活動の地域移行を検討する体制づくりが可能。

2. 実証内容と成果

運営体制・役割

▼運営体制図（当初計画）



▼行政組織内での役割分担

● 教育委員会（教育総務課）

検討会議の開催、全体調整、予算執行、報告書作成

年間の事業スケジュール

- 令和5年 4月 吉野中学校における学校部活動の段階的な地域移行についての検討会議開催
4月 保護者説明会の開催（吉野町の取組状況と今後の方向等の説明。学校PTA総会時に実施。）
5月 吉野中学校における学校部活動の段階的な地域移行についての検討会議開催
9月 吉野中学校における学校部活動の段階的な地域移行についての検討会議開催
11月 吉野中学校における学校部活動の段階的な地域移行についての検討会議開催
12月 吉野中学校における学校部活動の段階的な地域移行についての検討会議開催
- 令和6年 1月 学校部活動顧問を含めた調整会議開催
2月 地域クラブ活動の実践

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

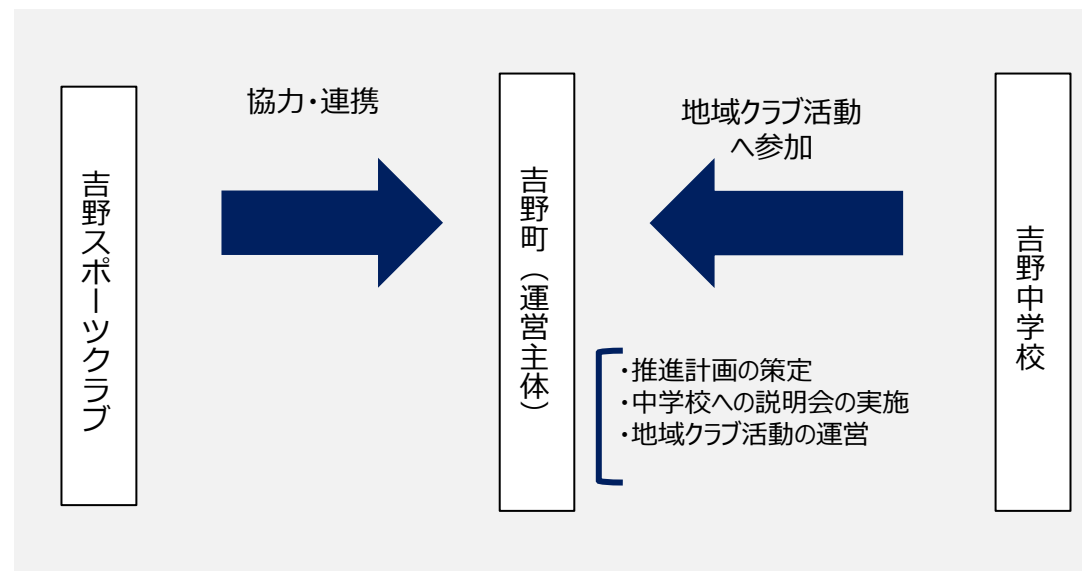
拠点校数	1 校	地域クラブ活動に取り組んだ種目	バレーボール
地域クラブ活動に取り組んだ部活動数	1 部活		

主な取組例

▼活動概要

拠点校名	吉野中学校
地域クラブ活動に移行した部活動数	1 部活
地域クラブ活動で実施した種目	バレーボール
運営主体名	吉野町教育委員会
運営類型	市町村運営型（地域団体・人材活用型）
1 か月あたりの平均的な活動回数	年 2 回
指導者の主な属性	部活動指導員ほか
活動場所	学校体育館
主な移動手段	なし
1 人あたりの参加会費等（年額）	無償
1 人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒 1 人あたり：800円/年 指導者 1 人あたり：1,850円/年

▼運営体制図（変更計画後・地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

▼取組項目名：ア. 関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

「吉野中学校における学校部活動の段階的な地域移行推進会議」を設置。まちの人口減少とともに生徒数も減少著しく、今後学校部活動も現状維持することは困難な状況であるが、できる限り子どもたちがやりたいスポーツをできる環境づくりのため、吉野スポーツクラブ、学校、教育委員会事務局（教育総務課、生涯学習課）を構成員として協議を進めた。

取組の成果

当初は、町内の総合型地域スポーツクラブである吉野スポーツクラブを運営主体とした地域クラブ実施を目指したが、スポーツクラブも多くの事業を抱えている現状でコーディネーター等を担うことで発生する事務負担への懸念、また、指導者人材の不足等による担い手の課題が明らかになり、年度後半からは町が主体となって実施する市町村運営型に転換して実証を行った。

特に工夫した事項

特記事項はありません。

今後の課題と対応方針

次年度は、持続可能な学校部活動の地域移行の運営体制づくりと、他の地域スポーツ関係団体との連携の在り方についても取り組んでいく。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

▼取組項目名：イ：指導者の質の保証・量の確保

取組事項

総合型地域スポーツクラブであるNPO法人吉野スポーツクラブの持続可能な運営体制の整備や人材の育成と確保に取り組む。

取組の 成果

吉野スポーツクラブのネットワークを活用しても様々な条件に合う指導者人材を見つけることは難しい結果となった。今後は他の地域スポーツ関係団体とも連携して指導者人材の確保に務めたい。

実践したバレーボールクラブは部活動指導員を中心として指導者体制を組めた。

特に 工夫した 事項

バレーボールクラブの実践では、活動場所や活動時間をこれまでの学校部活動と同じ条件にすることで、移行による生徒や保護者の混乱等が生じない環境づくりに配慮した。学校顧問が不在となる状況での活動となったが、部活動指導員を活用することでスムーズな地域クラブ活動ができた。

今後の 課題と 対応方針

さらに地域スポーツ関係団体とのネットワーク連携を図り、他の部活動についても指導者を確保していく。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

取組内容

▼取組項目名：ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

吉野スポーツクラブとの詳細協議および連絡体制を実践する。

取組の 成果

当初は、町内の総合型地域スポーツクラブである吉野スポーツクラブを運営主体とした地域クラブ実施を目指したが、スポーツクラブも多くの事業を抱えている現状や指導者人材の不足等による担い手の課題が明らかになり、年度後半からは町が主体となって実施する市町村運営型に転換して実証を行った。

特に 工夫した 事項

特記事項はありません。

今後の 課題と 対応方針

次年度は、持続可能な学校部活動の地域移行の運営体制づくりと、他の地域スポーツ関係団体との連携の在り方について取り組んでいく。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

取組内容

▼取組項目名：エ：面的・広域的な取り組み

取組事項

専門的な指導による生徒達の部活動の充実を図る。

取組の 成果

体制づくりに時間を要したため、広域的な取組まで検討することができなかったが、今後のこども達に多くの種類のスポーツ環境を整備するには、近隣町村とも連携した広域的な地域クラブは必須になると思われる。

特に 工夫した 事項

特記事項はありません。

今後の 課題と 対応方針

近隣町村の実証内容を共有しながら、広域化について検討していく必要がある。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

取組内容

▼取組項目名：オ：内容の充実

取組事項

地域クラブとして実践し、課題点を洗い出し、よりよい地域移行の体制づくりを行う。

取組の成果

運動部5部活の内、部活動指導員が在籍しているバレーボール部の地域移行から取り組んだ。部活動指導員1名と部活OB1名を指導者として、2月に2回実施した。
体制づくりに時間を要したため、指導内容の充実まで具体的に取り組むことはできなかったが、部活動指導員がいるため、生徒のことをよく理解しており、部活動同等以上の活動ができた。

特に工夫した事項

特記事項はありません。

今後の課題と対応方針

指導内容の充実に取り組んでいく。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

取組内容

▼取組項目名：カ：参加費用負担の支援等

取組事項

利用者負担の徴収の有無を中心に多様な財源の在り方について、検討会議で意見を出し合った。

取組の成果

検討会議では、これから継続的に地域移行するためには、実証段階から適切な自己負担を設定することが必要という意見もあがった。しかし、現時点ではまだ移行期であり、実証では現在の部活動環境と原則変更のないものにする結果、利用者費用は無償とした。実際、一部の部活動のみを地域移行して負担を求めることは難しく、利用者負担を徴収するのであれば、全ての部活動の地域移行を実施するタイミングと考えた。

特に工夫した事項

特記事項はありません。

今後の課題と対応方針

持続可能な体制作りを検討していく中で、他団体の実証等を参考にしながら、引き続き多様な財源の在り方と利用者負担金について協議していく。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

取組内容

▼取組項目名：キ：学校施設の活用等

取組事項

主に吉野中学校施設を使用するなど、学校施設の効果的な活用や利用ルールを考える。

取組の成果

実証では現在の部活動環境と原則変更のないものにする事としたため、活動場所も部活動と同じ場所（学校施設）を使用したことでいくつか課題が見えた。施設の鍵の管理面において、実証後鍵を戻そうとした際に職員室が施錠されていたため、指導者が入室できず戻せなかったことがあった。物理的な鍵の管理方法について、学校と指導者で再度打ち合わせして対応した。施設利用には学校も協力的であり、詳細な打ち合わせがあれば継続的な利用も可能であるとする。

特に工夫した事項

特記事項はありません。

今後の課題と対応方針

引き続き、学校施設を活用する方針で運営していく。今年度の実証はバレーボールのみであったので体育館の利用だけであったが、今後は、水泳部や野球部等の地域移行を検討していくので、グラウンドやプール施設などの課題についても実証していく。

2. 実証内容と成果

参考資料（活動写真）



吉野中学校バレーボールクラブ 練習

令和6年2月10日（土）

場所：吉野さくら学園体育館



吉野中学校バレーボールクラブ 練習

令和6年2月17日（土）

場所：吉野さくら学園体育館

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年度

協議会設置、
検討開始

保護者説明
会の開催

学校現場と
の調整

町主体への
転換・実証

令和6年度

地域クラブ数
の拡大

- ・令和5年度より実証事業を進めるため、吉野スポーツクラブ、吉野中学校、吉野町教育委員会を構成員とした協議会を立ち上げる。
- ・部活動の地域移行制度の理解度不足もあり、具体的な地域クラブ開始への協議がなかなか進まない。
- ・早い段階で保護者に吉野中学校の部活動の現状とこれからの地域移行の方針を説明する必要があると判断し、PTA総会時に時間をいただき、説明会を実施。
- ・指導者が確保できた部活動から段階的に地域移行の実証をスタートさせることとした。

- ・吉野スポーツクラブが主体となる地域クラブを目指したが、もともと多くの事業を抱えている現状などから組織のマンパワー不足が浮き彫りとなる。
- ・今年度については委託から直接事業に方針転換し、地域クラブをとにかくやってみることとする。
- ・実証にあたっては、欠席者連絡や鍵の受け渡しなどの懸念事項をとりまとめ調整会議を実施した。

- ・今後は、引き続き他の部活動の地域指導者の確保を進め、地域クラブ数を増やしていきたい。
- ・当初の方針であった、吉野スポーツクラブを主体とした地域クラブの運営体制づくりにあらためて取り組んでいく。

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ

	2023年度（R5）	2024年度（R6）	2025年度（R7）	R8
吉野町	令和7年度までに競技種目毎に必要な受け皿体制づくりを実践する			休日の部活動を地域移行
	バレーボール			
	その他の運動部活動（カヌー、野球、水泳、陸上競技）			
	文化部活動（吹奏楽）			
	平日の部活動は現状どおり継続し、令和7年度までの休日部活動を見直し			

**【奈良県大淀町】
令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業
（運動部活動の地域移行に向けた実証事業）**

自治体名	奈良県大淀町
担当課名	大淀教育委員会事務局 社会教育課
電話番号	0747-52-5549

1. 自治体の基本情報

基本情報

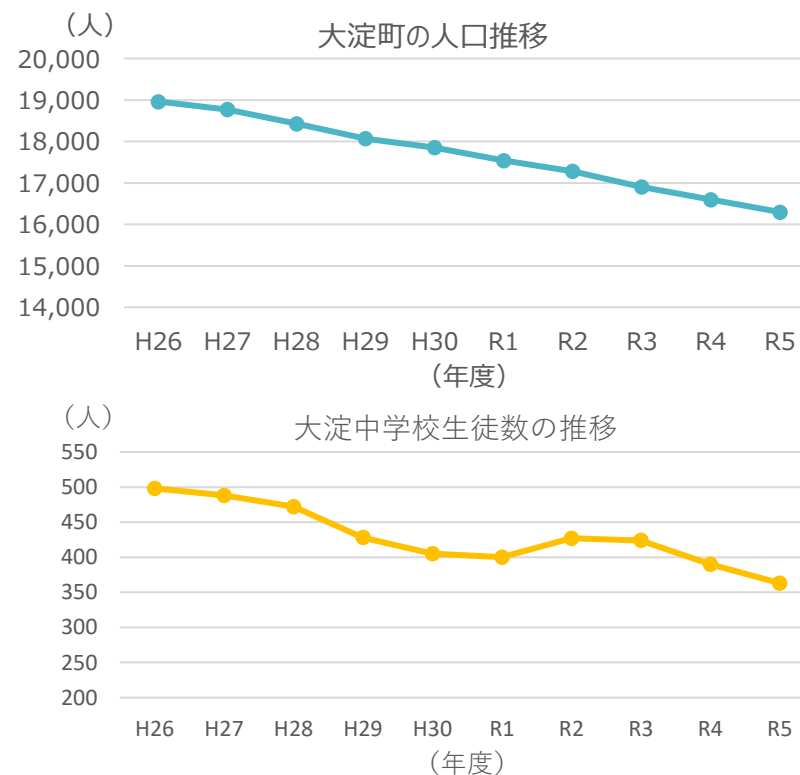
人口	16,297人	部活動数	16部活
公立中学校数	1校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置予定あり
公立中学校生徒数	363人	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

大淀町の人口は16,297人（令和5年6月1日現在）で、本町における中学校は大淀中学校が唯一の学校であり生徒数363名の規模である。部活動は運動部10種目、文化部6種目の合計16種目が活動しており、部活入部者は290名（入部率は79.9%）で、各部活動については複数顧問制としている。

このような状況にあるなか、大淀中学校においては本町の人口減少などに伴い、生徒や教師が減少傾向にあって、現在、部員の減少及び部活動の指導には担当する種目の競技経験・指導経験のない教師が顧問をせざるを得ない状況が生じており、徐々に部活動を維持することが困難な状況となっている。

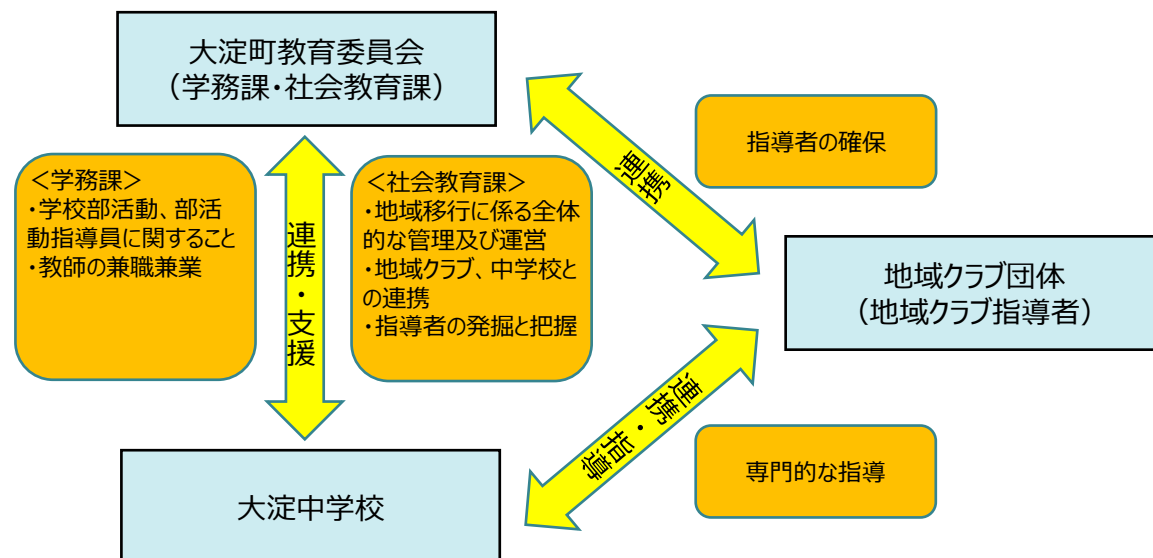
そして、少子化は今後さらに進展すると見込まれる一方で、本町には地域移行の受け皿として担ってくれる総合型地域スポーツクラブなどの団体が設置されていないため、指導者の確保が困難であると容易に予想できたことから、早期に地域移行への取組みを進める必要があった。



2. 実証内容と成果

運営体制・役割

▼運営体制図（市区町村における推進体制図）



▼行政組織内での役割分担

- **教育委員会（社会教育課）**
総括的なコーディネーター役を担い、指導者・活動場所の確保、中学校と地域クラブとの連絡調整等を行う
- **教育委員会（学務課）**
学校部活動、部活動指導員、教師等の兼職兼業等に関する業務を行う

年間の事業スケジュール

時期	計画事項
令和5年4月	第1回会議の開催（方針等の確認）
	地域クラブ活動参加予定の生徒及び保護者への説明会開催
令和5年5月	地域スポーツクラブ活動の活動開始（剣道）
令和5年7月	地域指導者向け研修会の受講
令和5年8月	第2回会議の開催（進捗・活動状況の確認等）
令和5年12月	第3回会議の開催（進捗・活動状況の確認等）
令和6年1月	地域クラブ参加の生徒・保護者等へのアンケート調査実施
令和6年2月	第4回会議の開催（成果報告、来年度に向けた検討課題）
	事業完了報告書、成果報告書等の作成

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

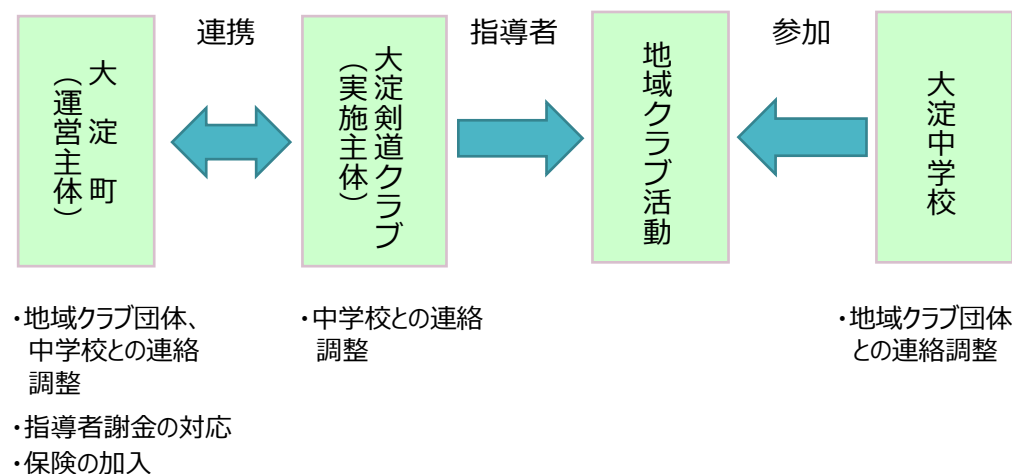
拠点校数	1 校	地域クラブ活動に取り組んだ種目	剣道
地域クラブ活動に取り組んだ部活動数	1 部活		

主な取組例

▼活動概要

拠点校名	大淀中学校
地域クラブ活動に移行した部活動数	1 部活
地域クラブ活動で実施した種目	剣道
運営主体名	大淀町教育委員会事務局
運営類型	市区町村運営型（地域団体・人材活用型）
1 か月あたりの平均的な活動回数	剣道：月 3 回程度
指導者の主な属性	地域クラブチーム関係者（指導者）
活動場所	町立桜ヶ丘体育館
主な移動手段	保護者による送迎、徒歩
1 人あたりの参加会費等（年額）	無
1 人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒 1 人あたり：800円/年 指導者 1 人あたり：1,850円/年

▼運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保証・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組

取組内容

▼取組項目名：イ：指導者の質の保証・量の確保

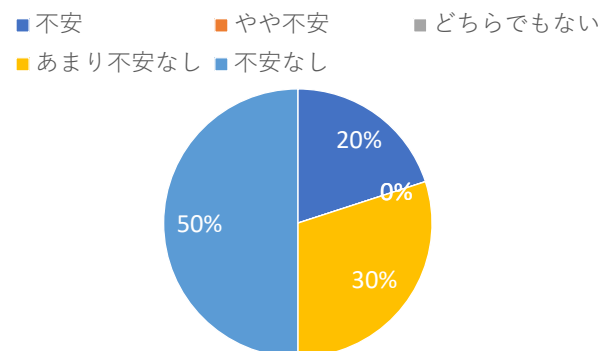
取組事項

本町の地域移行におけるモデル的な取組みとして、以前より教育委員会とスポーツ大会・スポーツ教室で交流のあった地域クラブに休日の学校部活動（練習）の受け皿として依頼し、土曜日の部活動について地域クラブの指導者（2名）により指導いただくこととなる。
 なお、活動場所は社会体育施設を使用する。

取組の成果

当初、平日の部活動と休日の部活動において指導者が異なることについて、生徒がスムーズに受け入れることができるのか懸念していたが、参加した中学生にアンケートを実施した結果、8割の生徒が「指導者への不安はない」という結果であったため、比較的スムーズに移行できたものとする。
 また、担当顧問（教師）の残業時間が月平均7.8時間削減し、課題の一つとなっていた学校の働き方改革に寄与することができた。

<地域クラブ指導者への不安度>



<地域クラブ活動状況>

活動期間	活動回数	1回の活動時間	活動実施時間
5～2月	26回	3H	78H

特に工夫した事項

平日の学校部活動と休日の地域クラブ活動において、生徒が不安なくスムーズに指導を受けることができるように、地域クラブ指導者と学校教師（顧問）が定期的（週1回程度）に参加状況活動内容などについて互いに連絡を取っていただいている。また、コーディネーターを担う教育委員会においても中学校と地域クラブ双方別々に参加状況、活動状況等を聞き取るようにしている。

今後の課題と対応方針

地域クラブ活動は学校部活動の教育的意義を継承していることや勝利主義につながらないように、地域クラブの指導者や住民の方々に理解いただく必要がある。
 また、活動場所が中学校と少し離れた社会体育施設を使用しているため、移動手段に不便さがあって参加する8割の生徒が保護者による送迎であり、保護者の負担軽減について検討する必要がある。
 地域クラブ指導者を早期に発掘・把握し、他の学校部活動についても地域移行の取組みを進める方針である。

2. 実証内容と成果

参考資料（活動写真）



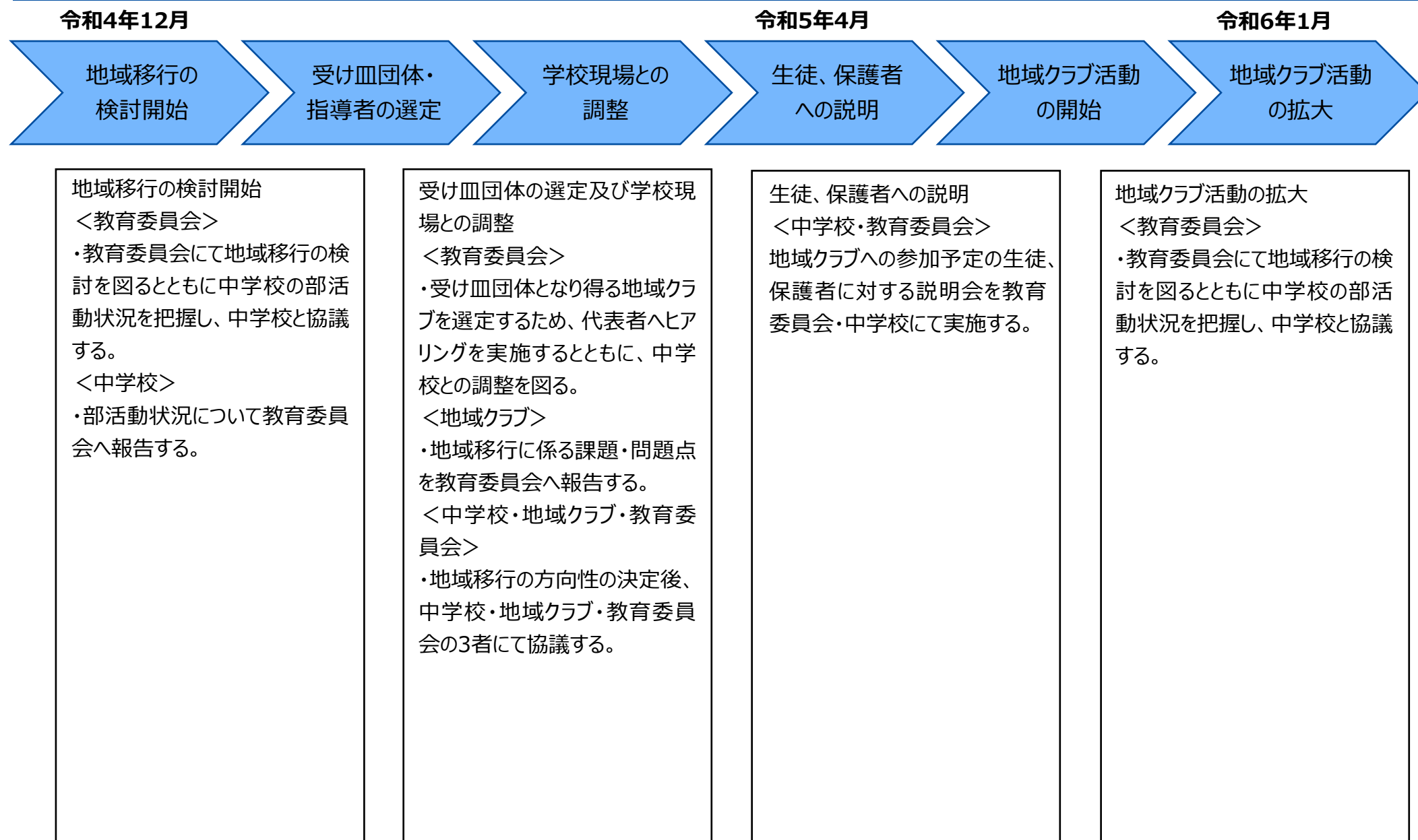
【地域クラブによる活動状況】



【指導者へ打ち込み練習する部員たち】

2. 実証内容と成果

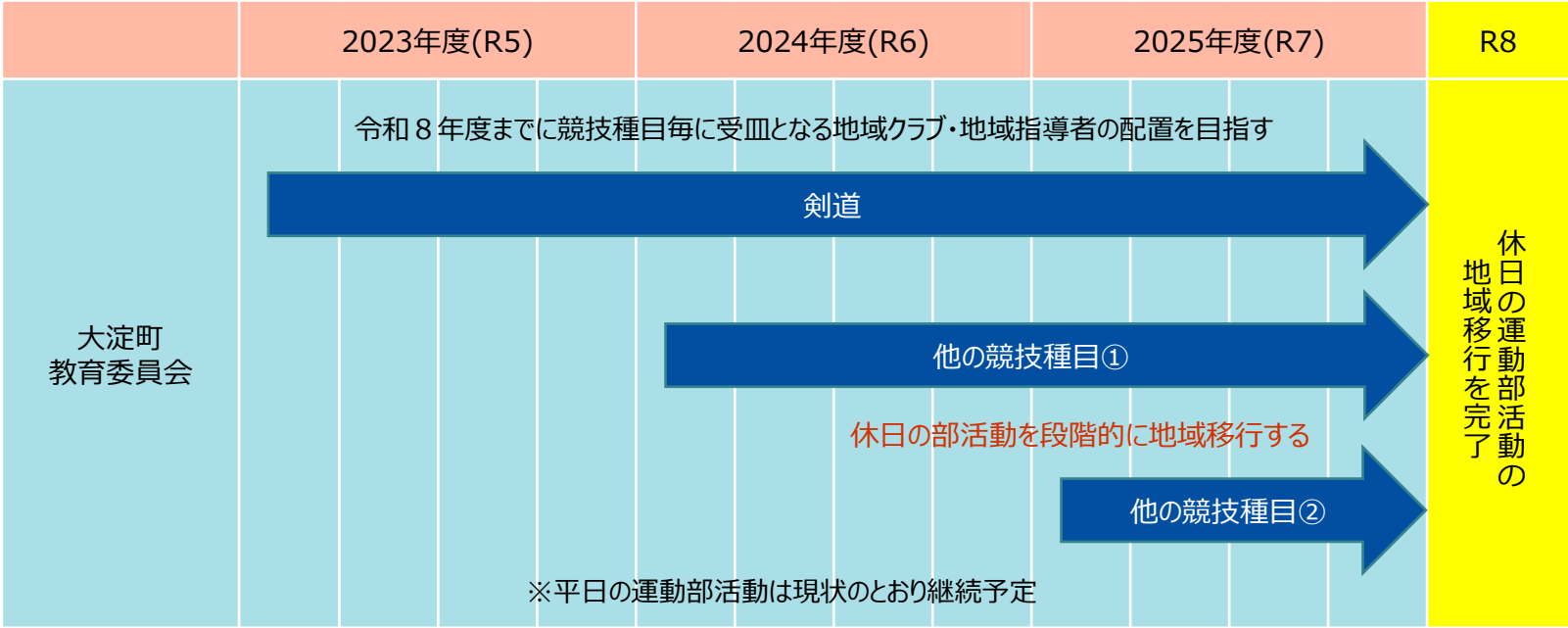
地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ

大淀町教育委員会 学校部活動の地域移行に係るスケジュール（案）



**【奈良県下市町】
令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業
（運動部活動の地域移行に向けた実証事業）**

自治体名	奈良県下市町
担当課名	教育委員会事務局
電話番号	0747-52-1711

1. 自治体の基本情報

基本情報

人口	4,595人	部活動数	4部活
公立中学校数	1校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置しない
公立中学校生徒数	66人	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	設置しない

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

下市町においては、少子高齢化が進み生徒の数も減少してきており、それに伴い部活動に参加する生徒も年々減少していることから、部活動の存続を危ぶまれてきている状況にあった。生徒の活動の場を継続し、文化・スポーツ活動を持続可能なものにするため、休日の活動を地域移行とした。

図1. 今後の生徒数推移

下市あきつ学園(後期課程)生徒数 予想				
年度	7年生	8年生	9年生	合計
R5	18	27	22	67
R6	26	18	27	71
R7	21	26	18	65
R8	21	21	26	68
R9	21	21	21	63
R10	16	21	21	58

図2. 令和4年度下市中学校部活動加入者数

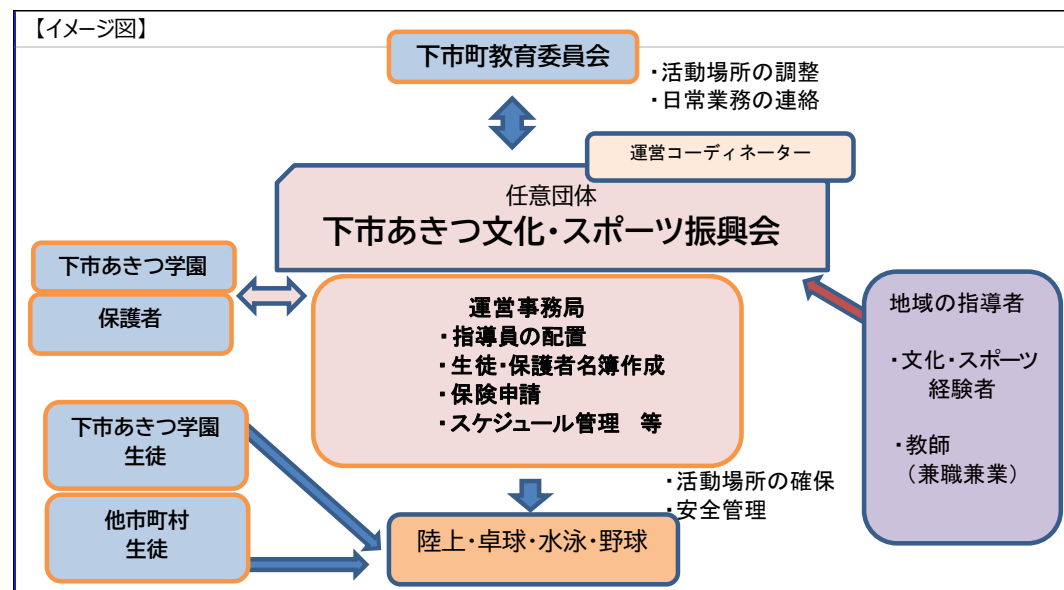
部活動名	1年生		2年生		合計
	男子	女子	男子	女子	
英語&美術(男女)	2	2	1	2	7
音楽部(男女)	0	1	0	0	1
野球部(男女)	0	0	0	0	0
陸上部(男女)	8	4	12	2	26
卓球部(男女)	6	2	1	0	9
水泳部(男女)	0	1	0	2	3

※いずれの資料も下市町教育委員会事務局調べ

2. 実証内容と成果

運営体制・役割

▼運営体制図（市区町村における推進体制図）



▼行政組織内での役割分担

● 教育委員会

下市あきつ文化・スポーツ振興会との連絡調整等。

● 首長部局（課）

下市あきつ文化・スポーツ振興会への活動助成

年間の事業スケジュール

下市あきつ文化・スポーツ振興会により、令和5年5月より陸上・卓球・水泳・野球の活動を開始した。

- ・4月 指導員及び部活動顧問の打合せ会議
- ・5月 クラブ活動開始

令和6年2月に指導者・保護者・生徒及び高学年児童にアンケートを実施。

- ・3月 アンケート結果の公開（予定）

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

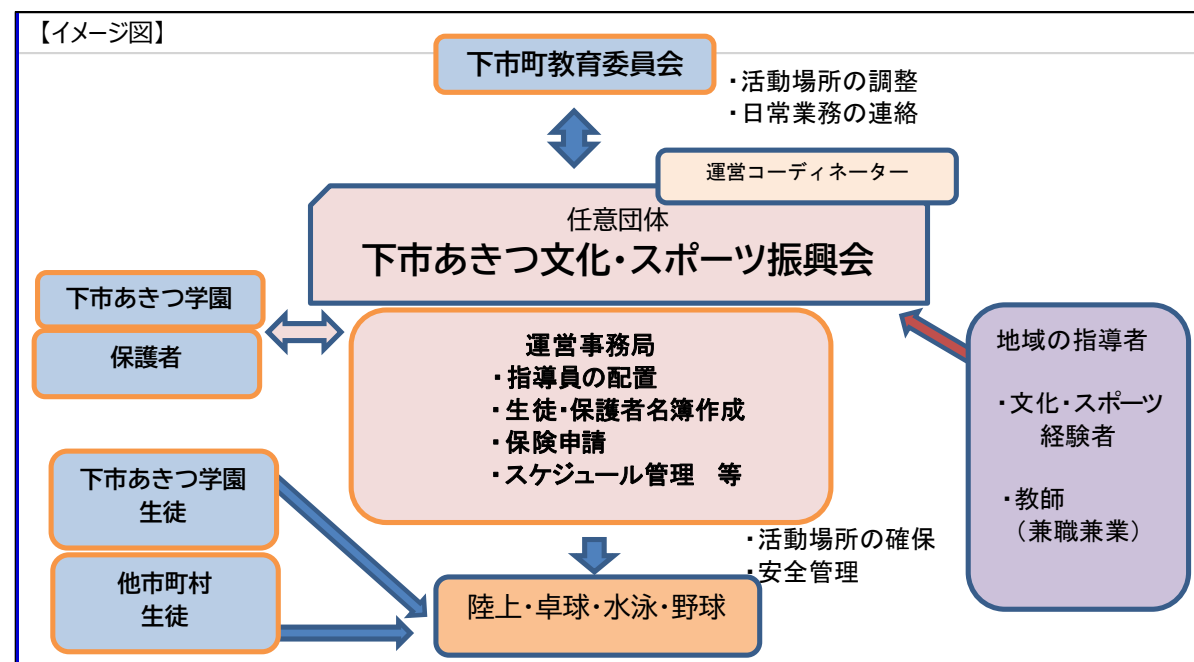
拠点校数	1校	地域クラブ活動に取り組んだ種目	陸上・卓球・水泳・野球
地域クラブ活動に取り組んだ部活動数	4部活		

主な取組例

▼活動概要

拠点校名	下市あきつ学園
地域クラブ活動に移行した部活動数	4部活
地域クラブ活動で実施した種目	陸上・卓球・水泳・野球
運営主体名	下市あきつ文化・スポーツ振興会
運営類型	市町村運営型（任意団体設立型）
1 か月あたりの平均的な活動回数	陸上：月4回程度、卓球：月4回程度 水泳：月4回程度、野球：月4回程度
指導者の主な属性	地域の指導者・兼職兼業の教師
活動場所	下市あきつ学園
主な移動手段	各個人による
1 人あたりの参加会費等（年額）	陸上・卓球・水泳・野球 年額：6,000円
1 人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒 1 人あたり：1,450円/年 指導者 1 人あたり：1,850円/年

▼運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

▼取組項目名：ア. 関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

運営コーディネーターを配置して下市あきつ文化・スポーツ振興会と学校との連絡調整を行う。

取組の 成果

部活動の地域移行を実施するにあたり、平日に実施している部活動との連携が必要となってくるが、コーディネーターを配置することで学校、部活動の顧問、教育委員会、下市あきつ文化・スポーツ振興会の橋渡し役となり、スムーズな移行を実施できた。

特に 工夫した 事項

地域移行した各クラブの活動は休日に実施しているが、コーディネーターに関しては、学校の教職員との連携を図るため、平日に業務を実施してもらうことがあった。部活動との連携を図り、指導に一貫性を持たせることで参加する生徒も違和感なく地域移行後のクラブに参加できるため、来年度以降も引き続き連携、すり合わせを実施していきたい。

今後の 課題と 対応方針

下市あきつ文化・スポーツ振興会の各クラブの指導員と学校部活動顧問との更なる連携。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

取組内容

▼取組項目名：オ：内容の充実

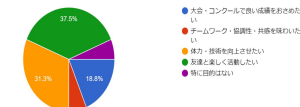
取組事項

児童生徒及びその保護者に対するアンケートの実施

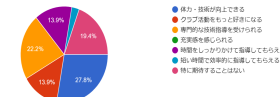
取組の成果

義務教育学校の5～9年生の児童生徒及びその保護者に対し部活動の地域移行に関するアンケートを実施。生徒がクラブに参加する目的として最も多く挙げられていたものが「友達と楽しく活動するため」で67.6%、児童も同様の結果で37.5%が「友達と楽しく活動したい」と回答していた。
来年度以降の指導方針として、大会等で上位を狙うような指導を行うのか等の方向性を決めるにあたって参考となるものであった。

クラブ活動に参加したい理由のうち、一番あてはまるものを選んでください
16件の回答



7. あなたはクラブ活動の指導員から指導を受けること、最もあてはまるものを1つ選択してください
36件の回答



次ページで拡大

特に工夫した事項

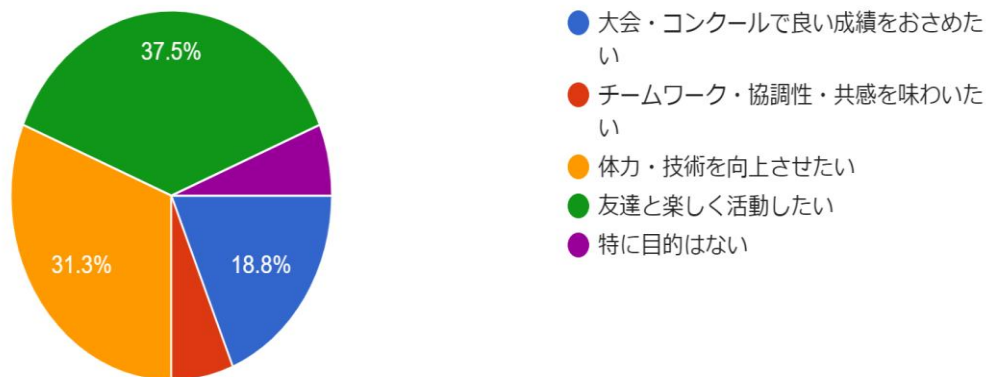
現在部活動及び地域移行後のクラブ活動の対象となっている中学生年代のみをアンケートの対象とするのではなく、近い将来部活動及び地域移行後のクラブ活動に参加する小学生年代の児童を対象としたアンケートを実施することで、地域移行後のクラブ活動の実施主体である下市あきつ文化・スポーツ振興会の長期的な計画を検討することができると考えている。

今後の課題と対応方針

継続的にアンケートを実施し、参加者（またはその保護者）が感じていることを収集できるようにしたい。
今年度実施したアンケートの項目、結果等については、本町のホームページで公開する。

クラブ活動に参加したい理由のうち、一番あてはまるものを選んでください

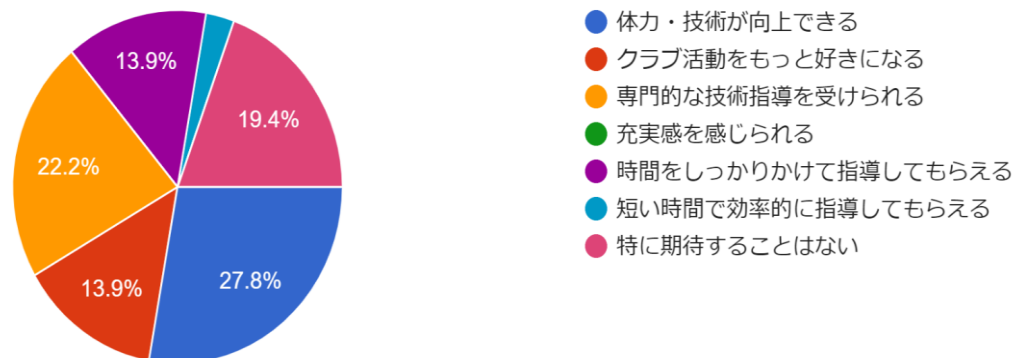
16 件の回答



7.

あなたはクラブ活動の指導員から指導を受けることでどのようなことを期待しますか。
次のうち最もあてはまるものを一つ選択してください。

36件の回答



2. 実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

部の活動の地域移行が 始まります

本町では、令和5年度より休日における部活動の地域移行を実施しています。
令和6年度以降もこの取り組みを進めてまいりますので、保護者の皆様にもご理解いただきますようお願いいたします。

部活動の地域移行とは…

- ・部活動を学校での活動ではなく、地域の活動として実施するものです。
- ・指導者は、教委が委嘱する指導員です。
- ・活動は、原則土日のいずれかのみ行います。

下市町教育委員会事務局

【広報用チラシ】



② 生徒

生徒の70.4%が運動部に、22.2%が文化部に入部している（又はしていた）と回答している。部活動に参加したいと回答した者のうち、部活動に参加している理由として最も多かった回答（複数回答可）が「友達と楽しく活動するため」で78%、次点で「体力・技術の向上させるため」が62%となっており、この2項目が際立って回答が多かった。また、部活動の顧問の先生から指導を受ける上で期待として、最も回答が多かった回答が「特に期待することはない」の34%、次点が「体力・技術の向上」で24%となっている。



③ 保護者

この項目は、生徒の保護者に対し回答を求めている。部活動に対し、どのようなことを期待しているか（複数回答可）について、最も回答が多かったものが「チームワーク・協調性・共感を味わってほしい」で84.8%、次点で「社会性（挨拶・礼儀）を身につけてほしい」が72.7%であった。



【アンケート結果の概要（一部抜粋）】

2. 実証内容と成果

参考資料（活動写真）



【陸上クラブ トレーニング】



【卓球クラブ ラリー練習】



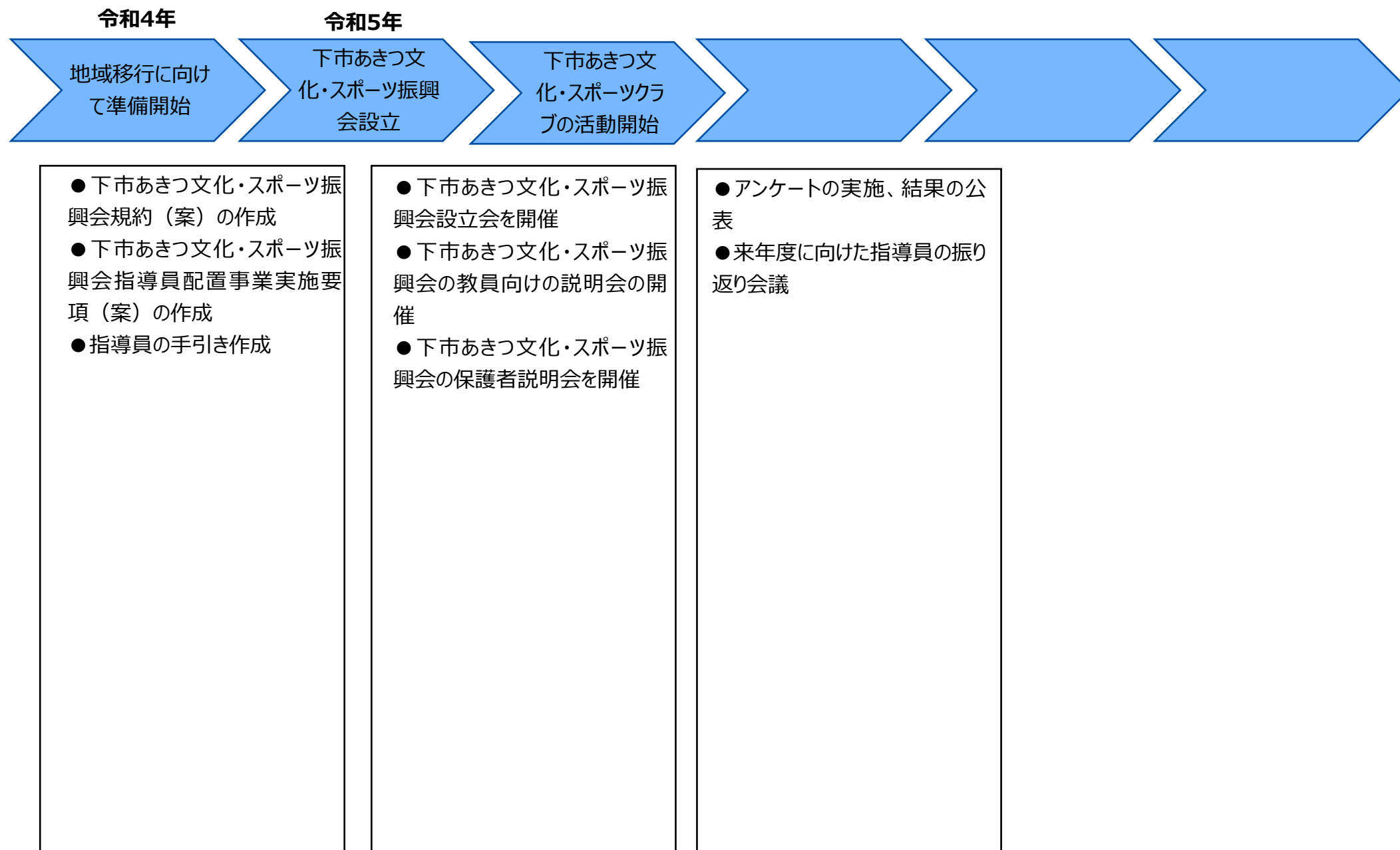
【陸上クラブ トレーニング】



【陸上クラブ 小学生年代体験練習】

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ

